

奈弓連だより

通巻 285 号

令和 7 年 11 月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 阪中計夫
編集担当 松澤和実 中西省五
連絡先: henshu@narakyudo.jp

第 2 回中央審査講習会

丹田の充実と射品・射格の向上を目指して

10 月 19 日、橿原公苑弓道場において、第 2 回中央審査講習会が行われました。10 月になっても夏日になる日が多くありましたが、当日は秋らしい気候となり絶好の講習会日和となりました。

講師に教士八段須田三郎先生、教士七段西中正先生をお迎えし、錬士受審予定者 11 名、六段受審予定者 8 名、教士受審予定者 4 名、七段受審予定者 4 名、合計 27 名が参加しました。



開講式の後に須田先生から、“中央審査受審前の最終チェック項目”のプリントが配布されました。プリントには射技や体配での、“守るべきこと”と“してはならないこと”が項目ごとに端的に記載されていました。特に、射技での守るべきことには“丹田の充実”が 4 回も出ており、射技での丹田の重要性が再認識できる内容となっています。そのほかにも、射品・射格の向上を目指して（教士・七段受審者対象）では、射品・射格を向上させる内容が 6 つの項目に纏められていました。配布された最終チェック項目を講習会場で実践できるように、控えてプリントを何回も読み返している受講生が多く見受けられました。開講式の後に全員で一手行射を行いました。行射の後の講評では、「手先での射が目立つ。手先で引いているから手先でしか離せない。大三で丹田を意識して、肘と肩を使って引き分けを行うように。また、足踏みが狭い人が多いので再度、自分の矢束を確認して正しい足踏み行う様に」などのお話がありました。その後、各、受審段位に分かれ、六段受審者は一手行射、錬士受審者は持ち的射礼を教士・七段受審者は一つの射礼を行いました。

昇格・昇段おめでとうございます

- 11 月審査会において次の方が昇格されました。
(11 月 7 日開催 関東地区錬士臨時中央審査会
全日本弓道連盟中央道場)

錬士 小西 徳子さん (橿原支部)

- 7 月地連審査会において昇段されました。

四段 植島 直子さん (橿原支部)

おめでとうございます。 (事務局)

(7 月の第一回地連審査の結果を掲載していませんでした。お詫びいたします。)

当初、審査も近いのであまり細かい指導はしないようにしますとのことでしたが、講習が始まると体配と射技をしっかりと見ていただき、全てにおいて懇切丁寧なご指導をいただきました。終日の審査講習会で盛り沢山の受講内容でしたが、時間が足りないと思うくらいに集中できた一日となりました。

先生方の熱意あるご指導を無駄にしないよう、審査に向けて課題に取り組む気持ちを新たにしました。また、提供いただきました“中央審査受審前の最終チェック項目”のプリントが審査受審前の最終チェック項目となるように普段の稽古で活用したいと思います。講師の先生方には一日ご指導頂き、心より感謝いたします。 (指導部 太田 和宏)

県連講習会 四段の部 2 日目

人数を絞り充実した指導

10 月 26 日(日)、ロート奈良弓道場において、基本体の姿勢及び基本動作の修得、射技・体配の向上、鋭い離れ、称号者の心構え、肌脱ぎ・襷掛けの修得を目的とした講習会が開催されました。主任講師に西浦範光教士七段、講師に藤岡順教士七段をお迎えし、補助講師は東中千佳錬士六段と松澤和実錬士六段で

した。

阪中会長より「前回の四段・五段合同の講習会では、多人数のため、こちらが伝えたい趣意を伝えられなかったと思います。今回講習会を分けたことで充実した内容になると期待します。」そして、西浦主任



講師から「五段と言わず、次の錬士を念頭に今日1日の講習を受けてください。」とのお言葉での開講となりました。一手行

射（審査の間合い）後に講評をいただき、2射場に分かれての射技研修。男女に分かれての肌脱ぎ・襷外しの研修後、1射場での持ち的射礼を行い、仕上げ行射となりました。射礼研修では、半数の受講生が射礼研修の経験が浅い、または位取りなどに自信がないなどだったため、立ちに経験者を入れて順番を組み替えるなど配慮いただきました。

私自身では、一手行射後の西浦先生、藤岡先生の両講師による射技指導で細かく指導をいただき、日頃の修練に疑問を感じながら、「弓道を辞めようか」と思うくらい自分自身にショック受けました。

次の持ち的射礼では、持ち的の流れはもちろんですが「それぞれ1つ1つの細かい小さな動作こそ大事に」との言葉がすごく心に残り、勉強になりました。途中でめげたり気が途切れそうになりましたが、始めの先生方の励ましの言葉を思い出して一日受講させていただきました。

先生方、熱心なご指導をありがとうございました。

（奈良支部 山下 常子）

第76回全日本弓道遠的選手権大会

過去の経験を活かして

10月25・26日、東京の中央道場で開催されました。過去に参加したときは予選通過がとても嬉しく満足してしまい、決勝を戦う心構えが緩んでしまいました。同じ失敗を繰り返さぬよう、どんな状況になろうと終わるまで「気を抜かない、感情を起伏させない。」という事を第一の目標とし、また全日本選手権大会という弓界最高峰の大会への参加なので、射・的中に全集中するのではなく、「体配、特に弓倒し・物見返し・足閉

じ・退場で気を抜かない。」を第二の目標としました。それを達成する事はとても高いハードルだったので、待機所に居る時も無駄に喋らない・無駄に立ち歩かない。とにかく自分に集中する事に徹しました。＜第一の目標＞予選は何とか通過。それで満足した訳ではなく、そこから！と思って挑みました。しかし気合が空回りしてしまい、決勝は最初の一手を外して6/10と不甲斐なく終わってしまいました。気が抜けてもダメ。入りすぎてもダメ。バランスが難しい事改めて痛感いたしました。＜第二の目標＞自分を客観的に見ようとYouTubeのアーカイブを見てみました。それなりに及第点はあったかと思っております。動きに改善すべき点はいくつか御座います。しかし、最後まで気を切らなかった事、雑な体配をしていなかった事、その点は今後に活かしてゆきたいと思います。

また、大会全体に対する感想ですが、本大会は的中のみを競う大会。全日本近似的選手権のように所作に対する評価のない大会です。それ故なのか、周りの所作、道場内外での態度、行動に驚く事は幾つかありました。射場内で立射の所作を熟さない選手、控えて立ったまま鏢を挿す選手、第二・第三控えの椅子に座らず、小さい窓から射場を見る選手、ウロウロ立ち歩き、控えて選手同士喋り出す…そんな様子も目にしました。そういう経験を反面教師とし自身の立ち振る舞いを省みられるようでありたいと感じました。一日のみの大会ではありましたが、全国の代表選手の中、自身もその一人として参加させていただいた事はとても良い経験になりました。

今大会に参加させていただけたこと県連盟、役員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（錬弓会支部 前角 博）

第9回シニア部研修会及び記録会

42名が参加し、自分の射と普段の稽古を見つめ直す

10月11日（土）樫原公苑弓道場において、第9回研修会及び記録会が、講師に阪中会長、西中名誉会長竹村顧問の3名の先生方をお迎えし開催されました。開会式後、受講生による一手行射。講師の先生方から、「見取り稽古は自分も見られている意識で射を行う、矢を飛ばすことだけではなく、それぞれの動作をチェックする、どんな気持ちで射を行ったか考える」など工夫が必要との講評を頂きました。その後A、B、Cの

三班に分かれ1回目の班別指導が行われました。昼食を挟んで2,3回目の班別指導を継続、今年は計画通り班別指導を3回行なうことができました。

最後に個々の研修の成果を確認すべく記録会に移り、一手行射と記録会の4本と合わせて6射の結果、最多的中者は以下となりました。

参段以下：福田 信秀（檀原） 3中

四・五段：小西 徳子（檀原） 4中

称号者：中川 亨（奈良） 5中

講師の先生方に丁寧なご指導をいただき、有意義な研修会・記録会でした。



（奈良支部 村高 洋志）

第28回 奈良県弓道近畿選手権大会 兼 令和7年度都道府県対抗弓道大会選考会 男子 福岡選手、女子 和田選手が優勝

11月3日（月・祝） 奈良県立檀原公苑弓道場において、上記の大会と選考会が行われました。男子47名女子47名、計94名の多くの参加でしたので、各自12射に変更して行われました。

成年女子の和田麻利さんは、12射12中の見事な成績で優勝されました。結果は、以下のとおりです。

〈成年男子の部〉

優勝 福岡 良剛（檀原）
2位 衛藤 博史（檀原）
3位 山口 亮二（生駒）

〈成年女子の部〉

和田 麻利（檀原）
白井 礼子（錬弓会）
阪本 真奈美（五條）



入賞者の皆さん(中央が優勝者)

〈都道府県対抗弓道大会選考会の結果〉

監督 藤岡 順

選手 福岡 良剛（檀原） 西田 友樹（檀原）
和田 麻利（檀原） 山口 亮二（生駒）
衛藤 博史（檀原）

補欠 中村 太一（生駒） 瀬戸 雅弘（生駒）
白井 礼子（錬弓会）



選手候補の皆さんと監督(後列左)

(競技部 白井 礼子)

第44回全国高等学校弓道選抜大会兼第33回近畿高等学校弓道選抜大会県予選(檀原公苑弓道場) 全国大会への切符は檀原高校(男子)と桜井高校(女子)に

10月25日26日に男女団体個人の予選が行われ、各自8射5中以上で予選通過とし、女子19名・男子23名通過しました。11月2日（日）2次予選・決勝が行われました。

〈個人結果〉

男子

1位 山口 泰世（桜井）
2位 堀井 魁星（五條）
3位 丹喜 仁一朗（畝傍）
4位 永田 一颯（桜井）
5位 奥野 幹（奈良）
6位 小谷 正敬（高田商業）
7位 藤田 悟瑠（桜井）
8位 石田 隆喜（桜井）

女子

上村 遙（桜井）
村山 希実（檀原）
川元 幸来（法隆寺国際）
大塚 万伊（奈良高専）
森内 英奈（桜井）
笹井 陽奈（桜井）
松本 結月（桜井）
邨田 結衣（畝傍）



入賞者の皆さん 左から1位

《団体結果》

予選通過 8 校を 4 校ずつ 2 リーグに分けて総当たりのリーグ戦を行い、上位 2 校ずつで決勝トーナメントを行いました。

<女子団体> (勝一敗・的中数)

女子Aリーグ			女子Bリーグ		
1 位	桜井	3-0・25	樫原	3-0・26	
2 位	奈良	2-1・19	県大附属	2-1・22	
3 位	五條	1-2・9	法隆寺国際	1-2・19	
4 位	国際	0-3・9	奈良高専	0-3・12	

<男子団体> (勝一敗・的中数)

男子Aリーグ			男子Bリーグ		
1 位	樫原	3-0・25	高田商業	3-0・26	
2 位	奈良北	2-1・27	畝傍	2-1・24	
3 位	法隆寺国際	1-2・10	県大附属	1-2・17	
4 位	奈良	0-3・10	五條	0-3・20	

<女子決勝トーナメント・3 位決定戦結果>

- 1 位 桜井** 準決勝 10 中 決勝 10 中
(藤田 美桜、上村 遙、狩野 結愛、松長 凜)
- 2 位 樫原** 準決勝 11 中 決勝 9 中
(増田 乃愛、村山 希実、辰巳 明優、山本 綾美)
- 3 位 奈良** 準決勝 6 中 3 位決定戦 5-2 中
(中塚 由芽、村上 実、宮崎 結花、衛 実裕子)
- 4 位 県立大附属** 準決勝 5 中 3 位決定戦 5-1 中
(大西 菜和未、石川 友理、伏見 紗耶、鈴木 友香)

<男子決勝トーナメント・3 位決定戦結果>

- 1 位 樫原** 準決勝 7 中 決勝 9 中
(牧浦 正登、金澤 宏咲、小池 遥斗、徳田 雄仁)
- 2 位 高田商業** 準決勝 7 中 決勝 5 中
(森 琉斗、横谷 日陽輝、小谷 正敬、横谷 諒登)
- 3 位 畝傍** 準決勝 6 中 3 位決定戦 9-2-3 中
(丹喜 仁一朗、森川 琥太良、野上 航弥、愛須 涼太)
- 4 位 奈良北** 準決勝 4 中 3 位決定戦 9-2-2 中
(石田 優希、押田 一輝、松村 寿洸、袴田 多聞)



団体入賞校 左から 1 位

男女とも団体 1~4 位・個人 1~8 位を表彰

団体 1 位・個人 1 位・2 位は、12 月 23・24・25 日に静岡県武道館(静岡)で行われる第 44 回全国高等学校弓道選抜大会に出場します。

団体 1 位~3 位・個人 1 位~6 位(女子は奈良高専を除く上位 6 名)は、11 月 22 日・23 日 京都市武道センター弓道場(京都府)で行われる第 33 回近畿高等学校弓道選抜大会に出場する。

(高体連 布施 慈人)

第 70 回樫原市民体育大会

中学生から一般まで総勢 108 名が競う

10 月 12 日(日)、標題の大会を開催し、中学生 51 名、高校生 7 名、一般 50 名と多くの方に参加いただきました。近代的競技は樫原公苑弓道場で実施し、高校生の部・一般の部の遠的競技は、万葉の丘スポーツ広場に移動して実施しました。中学生の部の遠的競技は、10 月 19 日(日)に大成中学校運動場で実施予定でしたが、雨天のため今年度は中止となり、高校生の部・一般の部の遠的競技も、途中で小雨が降ってきたため、4 射となり、より一本一本にかける大会となりました。近代的は予定通り 8 射を引くことが出来ました。

結果は以下の通りです。

[中学男子]近的

- 1 位 井上素音(八木)
2 位 小川昂太(大成)
3 位 吉原一翔(樫原)

[高校男子]近的

- 1 位 吉村琉生(高田商業)
2 位 長濱巧季(奈良高専)
3 位 稲岡宏弥(奈良高専)

[高校女子]近的

- 1 位 大塚万伊(奈良高専)
2 位 陰地舞(奈良)
3 位 該当者なし

[中学女子]近的

- 播野友麻(八木)
豊後優里(樫原)
西口由奈(大成)

[高校男子]遠的

- 吉村琉生(高田商業)
稲岡宏弥(奈良高専)
該当者なし

[高校女子]遠的

- 徳谷知咲(国際高校)
該当者なし
該当者なし

<遠近総合>

[一般男子]

- 1 位 西田 友樹
2 位 原田 祐介
3 位 奥田 章人

[一般女子]

- 長濱 有美
梅崎 康代
原田 温美

[オープン]

- 藤本 聡郎
高岡 信
仲倉 牧子

(樫原支部 西尾 香織)

第二十六回布目弓道大会 第一回吉本清信杯 参段以下の部 最優秀賞は加藤選手、四段以上の部 最優秀賞及び的中制 優勝は山口選手

11月2日(日) 布目弓道場英明館において、令和元年の第25回大会を機に休止していた布目弓道大会を、6年ぶりに開催いたしました。25回大会の際に父吉本清信は「これは最後ではなくお休みです」と語っていました。その後、令和4年11月1日に父は布目弓道場で最後の一手を引き、その1か月半後に亡くなりました。大会再開への父の遺志、多くの弓友の方に布目の里で弓を楽しんでもらいたい、吉本清信という弓士が引いていた道場で引いてもらいたいという思いから、第一回吉本清信杯として布目大会を再開いたしました。当日は104名の方にご参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。

布目大会は奈良県初の採点制の大会として始まり、的中だけでなく射技の向上も目指した大会です。その伝統を受け継ぎ、今回も採点制で最優秀賞を決定しています。錬士六段以上が採点審判員を担当し、参段以下の部は4本、四段以上の部は最初の2本を採点されました。参段以下の部では生駒の加藤晴さん、四段以上の部は生駒の山口亮二さんが最優秀賞を獲得されました。

審判員も含めて全参加者の的中上位者が吉本清信杯獲得となります。優勝決中は生駒 山口さんと奈良医大 寺谷仁良さんの6本目まで続く熱戦となり、山口さんが第一回吉本清信杯を獲得されました。参加者皆さんのおかげでの中も射技向上も目指した布目大会らしい充実した大会にいただきました。

入賞者には、父の書の記念弓巻、礮師象水さんのかけ袋などがあたり、閉会式では多くの方に山添村のお酒やお醤油、おそうめんやナッツ、ジャム、和コーラなどの名産品の飛び賞があたり、大変盛り上がりしました。



布目弓道場は父が村医をしている時に地元の中窪英明さんが平成5年に建ててくださった弓道場です。布目大会は平成7年から始まっています。多くの方に使い続けていただいているおかげで、大会を無事に再開、開催することができました。ご参加いただいた皆様、準備運営に携わってくださった皆様、誠にありがとうございました。今後とも布目弓道場をよろしくお願いいたします。

<試合結果>

採点制	参段以下の部	四段以上の部
最優秀賞	加藤 晴 (生駒)	山口 亮二 (生駒)
優秀賞	今中 祥子 (布目)	和田 麻利 (橿原)
的中制		

優勝 山口 亮二 (生駒)
準優勝 寺谷 仁良 (奈良医大)

第3位 加藤 晴 (生駒) 12名による遠近法



熱戦を繰り広げた寺谷選手、山口選手



参段以下の部
最優秀賞 加藤選手



四段以上の部
最優秀賞 山口選手と
(布目支部 吉本 清巳)

編 | 集 | 後 | 記

布目大会で、改めて弓を通じた「縁」のありがたさを感じることができました。この奈弓連だよりを通して、皆様との縁をより深められたら幸いです。
(編集担当 中西)